

宮古市立保育所等適正配置実施計画 (令和5年度～令和7年度)

宮古市保健福祉部こども家庭センター
令和5年3月(令和7年3月見直し)



市は、「宮古市立保育所等適正配置全体計画（以下「適正配置全体計画」という。）」を段階的・計画的に推進するため、令和5年度から令和7年度までの「宮古市立保育所等適正配置実施計画（以下「適正配置実施計画」という。）」を定め、保育環境の改善及び効率的・効果的な運営に取り組みます。

1 計画の期間

適正配置実施計画の期間は、令和5年度から令和7年度までの3カ年とします。計画の推進にあたっては、住民、保護者、関係機関等の意見を踏まえ、必要に応じてローリングを行い、進捗状況や実態に即した柔軟な計画内容となるよう努めます。

2 適正配置実施計画に掲げる施設

適正配置実施計画では、適正配置全体計画に掲げた次の指針に基づき、施設の在り方を判断します。

- 【指針1】立地場所の安全性と施設の老朽化の度合いを踏まえた計画的な改修の検討
- 【指針2】施設が所在する小学校区の就学前児童数及び私立施設を含めた施設配置の状況と、立地環境等地域の特性や実情に応じた在り方の検討
- 【指針3】入所又は待機児童数の状況に応じた定員数の見直しの検討
- 【指針4】基幹的保育所（小山田保育所、千徳保育所、田老保育所、新里保育所）の在り方の検討

今回の適正配置実施計画では、保育環境を改善する観点及び利用児童数の現状等から、いずれも建築経過年数が40年以上経過し老朽化が進む次の3施設について取り組むこととします。

- (1) 山口保育所
- (2) 愛宕保育所
- (3) 佐原保育所

以前の計画においては、花輪保育所、愛宕保育所、佐原保育所の順で再配置を検討するとしておりましたが、花輪保育所は既に再配置が完了したことから、新たに再配置の検討施設として山口保育所を加えています。

これは、山口保育所が愛宕保育所と同様に土砂災害危険箇所位置しており、早急に取り組む必要がある施設に位置付けられているためです。

また、山口保育所は、後述する移転候補となる市有地があることから、当該市有地の利活用を進めるため、最優先施設として取り組むこととします。

なお、公立保育所の民間委託等を検討していくなかにおいても、小山田保育所、千徳保育所、田老保育所、新里保育所の4施設については基幹的保育所と位置づけ、今後も想定される多様な保育需要に対応していくため、公立として運営を続けていくものとします。

3 施設ごとの実施計画

(1) 山口保育所



① 施設の状況

建築経過年数が50年を超え、老朽化が進んでいる状況にあります。また、土砂災害危険箇所内に立地し、園舎までの通園路が急坂であるほか、過去に大雨による河川氾濫時に通園路が水没するなど、災害時の安全確保の面で課題を抱えています。

■山口保育所施設概要

建築年月日	開設年月日	構造	延床面積	建築経過年数
昭和49年3月25日	昭和49年4月1日	木造モルタル造平屋建	459.59㎡	50年3月

② 児童数の状況

山口保育所が立地する山口小学校区の就学前児童数の合計は、令和4年度185人に対し、令和6年度は147人（令和4年度比79.46%）となりました。令和5年の計画当初見込んでいた令和7年度推計の167人を下回る児童数となっており、就学前児童の減少が加速しています。

■山口小学校区内の就学前児童数

年度	6歳 (5歳児)	5歳 (4歳児)	4歳 (3歳児)	3歳 (2歳児)	2歳 (1歳児)	1歳 (0歳児)	合計
R4	38	31	29	32	28	27	185
R5	28	27	33	27	24	24	163
R6	25	32	26	21	25	18	147

山口保育所入所児童数は30人前後で推移しています。年齢別内訳は下表のとおりです。学区内全体の就学前児童数に対する入所率は、令和4年度9.73%に対し、令和5年度13.50%、令和6年度17.01%と増加傾向にあります。

■山口保育所入所児童数及び入所率

区分	年度	5歳児	4歳児	3歳児	2歳児	1歳児	0歳児	合計
学区内児童数 (62.1%)	R4	3	6	1	5	3	0	18
学区外児童数 (37.9%)		0	2	3	2	4	0	11
計		3	8	4	7	7	0	29
R4年度学区内児童の入所率		7.89%	19.35%	3.45%	15.63%	10.71%	0.00%	9.73%
学区内児童数 (66.7%)	R5	6	1	6	5	4	0	22
学区外児童数 (33.3%)		2	3	0	5	1	0	11
計		8	4	6	10	5	0	33
R5年度学区内児童の入所率		21.43%	3.70%	18.18%	18.52%	16.67%	0.00%	13.50%
学区内児童数 (78.1%)	R6	1	7	8	4	4	1	25
学区外児童数 (21.9%)		2	0	4	1	0	0	7
計		3	7	12	5	4	1	32
R6年度学区内児童の入所率		4.00%	21.88%	30.77%	19.05%	16.00%	5.56%	17.01%

③適正配置の方向性

適正配置の方向性については、令和5年3月の本実施計画策定時において、「フラットピアみやこ跡地を移転先の候補地とし、公設公営に捉われず、公設民営、民設民営も含めた効率的な運営方法や財源の優位性などを検討しながら進めることとします。」としていたところです。

現在の山口保育所は、老朽化に加え、災害時の安全確保面の課題を抱えています。また、山口地区の就学前児童数は、計画策定時の推計を下回る児童数となっております。

令和5年度及び令和6年度に行った住民アンケートにおいて、フラットピアみやこ跡地に再整備した場合における交通安全面での懸念を指摘する意見を多くいただきました。

また、再整備を進めるにあたっての事業者の聴き取りでは、就学前児童数が減少する中での新たな施設整備に不安の声が挙がりました。

市では、このような状況を踏まえ、令和6年度に改めて検討を行い、フラットピアみやこ跡地への移転は行わないこととしました。

また、山口保育所は、再整備を行わなくとも、入所児童の他施設での受入れが可能であることから、令和9年度末を以って廃止する方向で検討することとします。

○ 山口地区の保育施設(入所児童数/受入可能人数(認可定員)) (R7.4.1 見込)

	① 宮古ひかり		② ぶどう のき	③ ぼかぼか てらす	④ こぐま ハウス	⑤ かきの き	計	①～⑤ の余裕 人数	山口 保育所
	(保育)	(幼児教育)							
0～2 歳	26/35	-	3/5	4/5	5/5	1/13	38/ 63	2 5	8/14
3～5 歳	54/50	20/74	-	-	-	-	74/124	5 0	30/31
計	80/85	20/74	3/5	4/5	5/5	1/13	112/187	7 5	38/45

■年度別計画

計画年度	実施内容
令和7年度	市民周知、保護者説明会、移転先見学会等
	年度後半から0歳児の受け入れを制限
令和8年度	保護者説明会、転園先見学会等
	0歳児、1歳児の受け入れを制限
令和9年度	保護者説明会、転園先見学会、事前交流等
	0歳児、1歳児、2歳児の受け入れを制限 令和10年3月末全児童移行完了

(2) 愛宕保育所



① 施設の状況

建築経過年数が58年を超え、老朽化が進んでいる状況にあります。また、土砂災害警戒区域内に立地しており、送迎時の駐車スペースが狭隘など、災害時の安全確保の面等で課題を抱えています。

■愛宕保育所施設概要

建築年月日	開設年月日	構造	延床面積	建築経過年数
昭和42年11月30日	昭和43年4月1日	木造モルタル造平屋建	301.42㎡	54年9月

② 児童数の状況

愛宕保育所が立地する宮古及び鯉ヶ崎小学校区の就学前児童数の合計は、令和4年度234人に対し、令和7年度推計では190人（令和4年度比81.4%）となり、減少することが想定されます。

■宮古及び鯉ヶ崎小学校区内の就学前児童数

年度	6歳 (5歳児)	5歳 (4歳児)	4歳 (3歳児)	3歳 (2歳児)	2歳 (1歳児)	1歳 (0歳児)	合計
R4年度	44	40	45	37	38	30	234
							↓81.40%
R7推計	37	38	30	30	31	24	190

令和4年度の愛宕保育所入所児童数は19人で、年齢別内訳は下表のとおりです。

入所児童19人のうち、学区内児童は7人で36.8%を占めており、学区内全体の就学前児童数234人に対する入所率は、2.99%と極めて低い水準にあり、これらを基に令和7年度の入所児童数を算出すると、16人と推計されます。

就学前児童数及び入所児童数の推計は同じく下表のとおりです。

■愛宕保育所入所児童数及び学区内児童の入所率

区分	年度	5歳児	4歳児	3歳児	2歳児	1歳児	0歳児	合計
学区内児童数（36.8%）	R4	3	1	0	1	1	1	7
学区外児童数（63.2%）		2	1	3	2	2	2	12
計		5	2	3	3	3	3	19
学区内児童数	R7推計	2	1	0	1	1	1	6
学区外児童数		2	2	2	2	1	1	10
計		4	3	2	3	2	2	16
R4年度学区内児童の入所率		6.82%	2.50%	0.00%	2.70%	2.63%	3.33%	2.99%

③適正配置の方向性

愛宕保育所は学校統合による広大な学区に位置しています。

学区内には、私立保育園や幼稚園が複数立地していることや、学区内の全体就学前児童数に対する入所率が低い実状など、上記①、②を踏まえ、同一学区内に立地し老朽化が進む佐原保育所との統合を視野に入れながら、具体的検討を進めることとします。

■年度別計画

計画年度	実施内容
令和 5 年度	適正配置の方向性検討、保護者・地域説明等
令和 6 年度	適正配置の方向性検討、保護者・地域説明等、用地の検討
令和 7 年度	(実施設計等、新築工事、旧園舎解体工事)
令和 8 年度以降	(実施設計等、新築工事、旧園舎解体工事)

(3) 佐原保育所



① 施設の状況

建築経過年数が 49 年を超え、老朽化が進んでいる状況にあります。また、住宅地に立地しており、駐車場の確保や近隣住民への配慮等にかかる課題を抱えています。

■佐原保育所施設概要

建築年月日	開設年月日	構造	延床面積	建築経過年数
昭和 51 年 10 月 30 日	昭和 52 年 4 月 1 日	木造モルタル造平屋建	423.99 m ²	45 年 10 月

②児童数の状況

佐原保育所が立地する鋤ヶ崎小学校区の就学前児童数は、令和 4 年度 97 人に対し、令和 7 年度推計では 81 人（令和 4 年度比 83.02%）となり、減少することが想定されます。

■鋤ヶ崎小学校区内の就学前児童数

年度	6歳 (5歳児)	5歳 (4歳児)	4歳 (3歳児)	3歳 (2歳児)	2歳 (1歳児)	1歳 (0歳児)	合計
R4年度	19	14	20	16	17	11	97
							↓ 83.02%
R7推計	16	17	11	13	14	9	81

令和 4 年度の佐原保育所入所児童数は 32 人で、年齢別内訳は下表のとおりです。

入所児童 32 人のうち、学区内児童は 21 人で 65.6%を占めています。また、学区内の全体就学前児童数 97 人に対する入所率は 21.65%で、これらを基に令和 7 年度の入所児童数を算出すると、29 人と推計されます。

就学前児童数及び入所児童数の推計は同じく下表のとおりです。

■佐原保育所入所児童数及び学区内児童の入所率

区分	年度	5歳児	4歳児	3歳児	2歳児	1歳児	0歳児	合計
学区内児童数（65.6%）	R4	3	7	4	4	3	0	21
学区外児童数（34.4%）		0	3	3	2	3	0	11
計		3	10	7	6	6	0	32
学区内児童数	R7推計	3	9	2	3	2	0	19
学区外児童数		2	2	2	2	2	0	10
計		5	11	4	5	4	0	29
R4年度学区内児童の入所率		15.79%	50.00%	20.00%	25.00%	17.65%		21.65%

③適正配置の方向性

上記①、②を踏まえ、就学前児童数の推移や地域の実状から、移転新築による再配置について検討することとします。

再配置にあたっては、同一小学校区内に立地し、老朽化が進む**愛宕保育所との統合を視野**に入れ、**既存市有地内に配置**できるよう具体的検討を進めることとします。

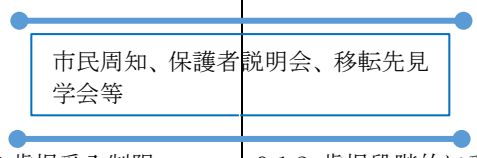
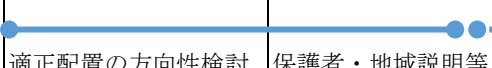
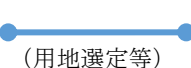
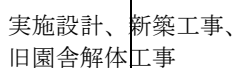
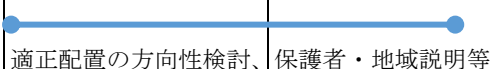
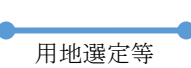
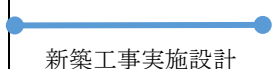
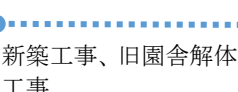
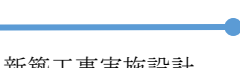
また、公設公営に捉われず、公設民営、民設民営も含めた効率的な運営方法や財源の優位性などを検討しながら進めることとします。

■年度別計画

計画年度	実施内容
令和 5 年度	適正配置の方向性検討、保護者・地域説明等
令和 6 年度	適正配置の方向性検討、保護者・地域説明等、用地の検討
	※民設を検討する場合 事業者公募・決定
令和 7 年度	新築工事実施設計等
令和 8 年度以降	新築工事、旧園舎解体工事

4 年度別の実施計画

計画期間内の年度別の実施内容については、次の表のとおりです。

施設名／年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	(参考) 令和 8 年度以降
山口保育所			 市民周知、保護者説明会、移転先見学会等 0歳児受入制限	0,1,2 歳児段階的に受入制限 令和 9 年度末全児童移行完了
愛宕保育所	 適正配置の方向性検討、保護者・地域説明等	 (用地選定等)	 実施設計、新築工事、旧園舎解体工事	
佐原保育所 (公設の場合)	 適正配置の方向性検討、保護者・地域説明等	 用地選定等	 新築工事実施設計	 新築工事、旧園舎解体工事
民設の場合		 事業者公募 ・決定	 新築工事実施設計	 新築工事・開園